

フェンシング部 部則-解説

第1章 総 則

1. 名称、所在地、所属、目的等全般に共通する項目について定めている。
2. これにより当部が関係団体に対してどのように位置付けられるのかを把握できる。

第2章 活 動

1. 当部の基本的な活動内容の記載と、活動の際に計画をたて、報告を行うことを定めた。
2. これにより年度始めまでに当部及び個々の予定を確認し、また年度終わりに結果を確認することができる。

第3章 組 織

1. 顧問、監督、コーチの位置付け、また、学生幹部として、主将、副将、主務、会計、種目リーダーについて記載。それぞれの選出方法、任期、権限を記載。
2. 顧問(設置する場合の副顧問含む)は、大学側の決定事項である。監督、コーチは学長が委嘱する手続きをとるため、顧問とは位置付けが変わる。
3. イメージは、コーチが技術的に全体を統括し、それ以外のことを含めてクラブ全体を統括するのが監督の役割。最終責任者が顧問。
4. 主将以下学生幹部は、監督・コーチの方針に従い、また相談し、クラブ運営を行う。(自主性を尊重する形で記載している)
5. また学生幹部以外の部員に役割を与えることができる旨の記載をすることで、全員が何某かの担当をする運営が可能となる。

第4章 部 員

1. 入部・退部の手続き、部員の心得等を記載。
2. 心得には大学初心者との関係性や卒業後の努力義務を記載。
3. ここはたくさんの意見により記載内容を検討したい。

第5章 会 議

1. 様々な活動における決定事項を定める機会を、原則年1回定めることにして、全員の意識共有を行う。それらのルールを記載。
2. クラブ全体に係ることは年1回の会議で決定するというのが社会的なルールでも多く見られるため、適用した。

第6章 会 計

1. クラブ運営に係る会計を整理して明らかにし、部員への視覚化のために定める。
2. 大学及びOBOG会からの援助と部費により、収入を構成
3. 部費を徴収し、原則は登録費に充てる案としている。
4. 部費は月1,000円、年間12,000円と考えている。
5. 4年生が何月まで支払うかは相談によるが、卒業する年の3月まで払うことをもって卒業とするのが良いと考えている。
6. これは、体育全体のOBOG会に卒業生数×1万円が義務付けられていて、フェンシング部のOBOG会で立て替えるためには、4年間部費を完済することが説得力がある。
7. 部費、援助金、個人負担を明確にルール化する。

第7章 懲 戒

1. 罰則と処分内容、その手続きについて記載。

2. この章に掲げられている内容には、SNS等での不適切な書き込み等も含まれることに注意すること。

第8章 その他

1. 本部則は必要に応じて改正できることを定めている。

附 則

1. 施行期日などを記載
2. 現役部員は施行後、遡って適用する方向。例えば入部届など。